

EX SANKEI EXPRESS CONTENTS



05 若い人の反応が楽しみ
「ゴジラ展」のテープカットで第1作主演の宝田明さん(80)が「人間でいえば還暦」と感慨ひとしお。



06 クールに球宴新記録
球宴新記録となる球速162km/hをマークした大谷翔平投手(20)。「真ん中めがけた」と涼しげな顔。



10 殺人は「悪」なのか
昨年のテーマは「人肉食」、新作は「殺人」。作家、村田沙耶香さん(34)はタブーに果敢に挑む。



22 みんなサッカー大好き
ここでもW杯が人気です！ バヌアツ在住のフリーアナ、相川梨絵さん(37)が見た熱狂ぶりとは？



31 バイオリンで快挙
パッサコンクール・バイオリン部門で日本人初の1位となったのは岡本誠司さん。20歳の芸大生だ。

村上春樹研究 台湾から世界へ

台北の私大 来月、拠点を設置

淡江大で展示されている村上春樹さんの著作の前で話す曾秋桂教授＝6月、台北郊外(いずれも共同)

各国語に翻訳されている人気作家、村上春樹さんの作品を研究する「村上春樹研究センター」が来月、台北郊外にある私立大学の淡江大に設立される。台湾は中国語圏における人気を牽引してきたこともあり、担当する曾秋桂教授(日本文学)は「国際的な研究拠点を狙いたい」と意気込んでいる。

創作のヒント求めて

村上作品が中国語圏に登場したのは1980年代半ば。台湾では国民党の独裁体制から民主化に向かっていった時期で、頼明珠さんが翻訳を手掛けた作品が出版されると「村上春樹現象」と呼ばれるほど話題に。その後、人気は香港経由で上海や北京などに波及した。

しゃれた都会的なセンスを示す「非常村上」(すごくムラカミ)という流行語も台湾から広まった。頼さんは「創作のヒント」を求めて愛読する文化人や建築家も多いと指摘する。

中国語版は複数の翻訳家が手掛けているが、東京大の藤井省三教授(中国現代文学)は、原文に忠実なのが頼さんの訳で「ありのままの村上ワールドを楽しむことができる」と評価。シンガポールやマレーシアなど東南アジアの華人にも読まれているという。

日本のハルキスト(熱心な村上ファン)になじみが深い、村上さんの造語「小確幸」(「小さいけれど、確かな幸福」という意味)は、台湾でも多くの人々の心をつかんだ。近年では、広告や政治家の演説で頻りに登場するほか、台北市内には店名にした喫茶店も登場した。

頼さんは「90年代に好調だった経済が勢いを失い、中国の影響が強まるなど台湾社会が激変する中、これまでの生活を維持できないかもしれないという危機感が共感につながっているのではないかと分析する。

大学でも作品を研究対象に選ぶ学生が増えており、日本研究に力を入れる



淡江大は村上作品の研究を「重点」分野に位置付け、専門機関の設置を決定。各地でどう読まれているかの比較など、さまざまな視点で研究を行うという。

「日本の理解深めたい」

淡江大はこれまでも日中韓や東南アジアの研究者、翻訳家を招き、村上作品をテーマとする国際学術会議を開催。ことし6月の会議には、村上さん本人が長年の支持に感謝を示した上で「しばらくは小説を書き続けたいと思う。次の小説を楽しみにしてほしい」とのメッセージを寄せた。

曾教授は、一貫して日本や日本人をテーマにしてきた村上作品の研究を通じ「日本の理解を深めたい」と話す。来年7月には北九州市で国際学術会議を開く計画だ。(台北 共同)



村上春樹さんの造語「小確幸」を店名に付けた喫茶店＝3日、台北市内



村上作品の海外翻訳 国際交流基金によると、村上春樹さんの作品を翻訳した各国・地域の出版物は、約40言語の500点超に上る。このうち台湾、中国、韓国はそれぞれ50点を超え、世界でも突出して多い。中国語圏では、台湾の頼明珠さんの繁体字版と、中国の林少華さんの簡体字版が知られるが、同じ作品を複数の翻訳者が手掛けたケースも少なくない。東京大の藤井省三教授によるとアジアでは「ノルウェイの森」、欧米では「羊をめぐる冒険」が比較的多く読まれるなど作品の人気に地域差もある。(台北 共同)

EX SANKEI EXPRESS
発行所: ©産業経済新聞社
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57
大阪(06) 6633-1221 (大代表)
www.sankei-express.jp

購読のお申し込み
☎0120-34-3733 平日9時～19時
土・日・祝日9時～17時
www.sankei-express.jp

販売・配達に関するお問い合わせ
06-6633-9357 平日9時～19時
土・日・祝日9時～17時
o-sankei-hanbai.com/c (平日のみ)

紙面・記事へのご意見・ご質問
06-6633-9066 平日9時～18時
土曜～17時、日祝日休み
o-dokusha@sankei.co.jp

購読料
月ぎめ 本体2,000円(消費税込み2,160円) 1部売り 110円(税込み)